

平成29年度シラバス（公民） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	公民（政治経済）	単位数	2単位	学年 系	1学年（普通科）
使用教科書	東京書籍「政治・経済」（政経302）				
副教材等	とうほう『政治・経済資2017』				

1 学習目標

広い視野に立ち、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させると共にそれらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高めます。
- ②基本的人権と議会制民主主義を尊重擁護する意義を理解させると共に、民主政治の本質について探求させることを目指します。
- ③日本経済の動向について関心を高め、現代経済の機能について理解することを目標とします。

3 指導計画（「時間」の欄は授業時間 55 分を 1 時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	評価方法
4月 ～5月	1節 民主政治の基本原理	教科書 副教材 プリント	①民主政治の成立(2h) ②法の支配(2h) ③基本的人権の確立(2h) ④現代の民主政治(2h) ⑤世界のおもな政治体制(1h)	・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解する。 ・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の国際的な広がりについて考察する。 ・民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	授業の取組 提出物
5月 ～6月	2節 日本国憲法の基本原則	教科書 副教材 プリント	①日本国憲法の基本原則(2h) ②平和主義と自衛隊(2h) ③基本的人権の保障と新しい人権(3h)	・日本国憲法の成立過程と三大基本原則である国民権、基本的人権の尊重、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解します。 ・日本国憲法が保障する基本的人権について、平等権、自由権、社会権などに関する、具体的な判例に則しながらその特徴と課題について学習します。 ・日本国憲法の根本理念である平和主義について学習するとともに、現実の課題である日米安全保障条約にともなう沖縄の米軍基地の問題や自衛隊の現状などについて考察します。	第1回 定期考査 授業の取組 提出物
6月 ～7月	3節 日本の政治機構	教科書 副教材 プリント	①国会と立法(2h) ②内閣と行政(2h) ③裁判所と司法(2h) ④地方自治(2h)	・国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解します。また、二院制を採用している意義と特徴および衆議院の優越がどのように機能しているかについて学習し、日本の国会の権限と課題について考察します。 ・戦前と戦後の内閣の違いを考察した上で、内閣の機能や内閣総理大臣の権限を学習します。また、世界的な傾向である行政国家化と官僚制の問題を考え、あわせて日本の行政をめぐる諸課題と改革の動きについて理解します。 ・司法のあり方について、戦前と現行憲法下の共通点と異なる点を考察し、三審制のしくみや違憲法令審査権の意義、検察審査会の役割などについて学習します。また、国民の司法参加と司法改革の動きやさらなる課題について考察します。 ・民主政治における地方自治の意義とあり方について理解するとともに、国と地方との関係や課題、住民の政治参加のしくみと意義について考察します。	授業の取組 提出物
7月 ～9月	4節 現代政治の特質と課題 5節 現代の国際政治	教科書 副教材 プリント	①戦後政治と政党(2h) ②選挙と政治意識(2h) ③世論と政治参加(1h) ①国際関係と国際法(1h) ②国際社会の組織化と変容(2h) ③国際政治の動向(2h) ④国際政治の課題(1h) ⑤地球環境と資源・エネルギー問題(2h) ⑥地球市民社会における日本の役割(1h)	・民主政治における政党や利益集団の意義と役割について考察し、あわせて日本における政党の歴史的経緯について理解します。 ・民主政治における選挙の意義を理解し、そこから導き出される選挙の原則を考察します。また、選挙制度の種類とそれぞれの特徴を学習するとともに、日本の選挙制度が抱える課題や問題点について考察します。 ・世論の役割を考察し、世論形成に大きな影響を及ぼすマスメディアの現状とあり方について考えます。また、国民の政治参加の新たな動きについて考察します。 ・国際社会の成立過程と主権国家と国際法との関係について学習し、国際社会の新たな要素として登場してきたNGOの役割や国際社会と個人との関係について考えます。 ・国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解します。また、その具体化である国際連合の成立過程やしくみ、役割と課題について学習します。 ・第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し、冷戦の終結後もなぜ紛争等の問題が起こっているのかについて考えます。 ・第二次世界大戦後の核軍拡競争の流れと非核化、軍縮の努力について学習し、地域紛争の現状と難民の問題について考えます。 ・地球環境問題と資源・エネルギー問題についてその現状を理解し、環境保護の取り組みと課題について考えます。 ・戦後の日本外交や安全保障の動きを理解し、今日の国際社会における日本の役割について考えます。	第2回 定期考査 授業の取組 提出物 第3回 定期考査
10月 ～11月	第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ	教科書 副教材 プリント	①資本主義体制の成立と発展(1h) ②現代経済の特質(1h) ①経済主体と経済の循環(1h) ②生産のしくみと企業(1h) ③市場経済の機能と限界(2h) ④国民所得と経済成長(1h) ⑤金融のしくみと機能(2h)	・現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯をへて成立しているのかを理解するとともに、資本主義経済の特徴や変遷および社会主義経済についても理解を深めます。 グローバル化や情報化が進む今日の資本主義経済の特徴を考察します。 ・経済主体間の結びつきを考えながら、経済活動の循環を考察します。 ・資本主義経済を支える企業活動とはどのようなものかを理解するとともに、企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的あり方について考察します。 ・資本主義経済の核心をなす市場の働きについて理解し、市場の失敗についても理解を深めます。 ・国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解し、物価や景気の変動が国民生活におよぼす影響についても考察します。	授業の取組 提出物

			⑥財政のしくみと機能(2h)	<ul style="list-style-type: none"> 金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解します。また、金融の自由化など金融をめぐる環境の変化についても理解を深めます。 租税の意義や財政の基本的な役割を理解するとともに財政の課題と財政改革の必要性について考察します。 	
11月 ～12月	3節 日本経済の発展と産業構造の変化 4節 福祉社会と日本経済の課題	教科書 副教材 プリント	①経済再建から高度成長へ(1h) ②オイル・ショック後の日本経済(1h) ③日本経済の現状(1h) ①公害と環境保全(1h) ②消費者問題(1h) ③農業・食料問題(1h) ④中小企業の現状と課題(1h) ⑤雇用と労働問題(2h) ⑥社会保障と福祉(2h)	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解します。 オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し、バブル経済とその崩壊について考察します。 「構造改革」の特徴と影響について考察し、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について考察します。 足尾銅山鉱毒事件以降、日本経済の発展とともに発生した公害問題と政府による公害への対策の動きについて学習し、環境問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要かを考察します。 消費者問題とは何か、またその背景に何があるかを考え、消費者主権の意義を考察します。 日本農業の現状と農業政策の変遷を理解し、食料問題や日本農業の課題について考察します。 中小企業の地位と役割について学習し、日本の中小企業の現状と課題について考察します。 労働問題と労働運動の歴史的経緯について学習し、労働者の権利や労働組合の意義について考察します。また、雇用環境の変化と現代の労働問題について理解します。 社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について学習し、日本の社会保障制度の柱について理解を深めます。 	授業の取組 提出物 第4回 定期考査
1月 ～2月	5節 国民経済と国際経済	教科書 副教材 プリント	①貿易と国際収支(2h) ②経済対立と国際協調(1h) ③発展途上国の経済(1h) ④地域主義の動き(1h) ⑤グローバル化する世界経済(1h)	<ul style="list-style-type: none"> 貿易の意義、自由貿易の利点などについてリカードの比較生産費説をもとに理解します。また、国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを学習します。 国際通貨体制やIMF-GATT体制の変遷について理解し、保護貿易主義の台頭と国際協調の動きについて考察します。 南北問題や南南問題の歴史的な変遷と発展途上国の経済発展の状況および南北格差の是正について考察します。 さまざまな形態をとる地域的経済統合の動きについて考察します。 グローバル化の進展にともなうさまざまな経済環境の変化について考え、日本の役割について考察します。 	授業の取組 提出物
2月 ～3月	第3章 現代社会の諸課題 (※1節、2節で取り上げられているテーマのなかからいくつかを選択して学習します。) 1節 日本社会の諸課題 2節 国際社会の諸課題	教科書 副教材 プリント	(計4h以上) ①少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ ②地域社会を活性化するにはどうすればよいか？ ③どのようにして若者の労働環境を改善するか？ ④中小企業の活路はどこに？ ⑤どうする？日本の「食」と「農」 ①地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ ②経済援助は貧困を削減できるか？ ③地球市民社会で日本がなすべきことは何か？	<ul style="list-style-type: none"> 日本の政治や経済に大きな影響を与える少子高齢化について、どのような問題か理解し、原因と解決方法について考えます。 地方分権の動きについて現状を理解し、地域社会が抱える問題について理解を深めます。また、その解決策について考察します。 若者を取り巻く労働環境の現状を理解し、フリーターやニート、非正規雇用の増加について背景や問題点を考察します。 悪化する中小企業を取り巻く現在の環境を理解します。また、中小企業が生き残り、発展する条件を考えます。 日本の農業の現状とあるべき姿について考察し、日本の農業を取り巻く環境をいかに改善するべきか考えます。 世界のエネルギー供給の現状と課題を理解し、原子力発電の動向について2011年の福島第一原子力発電所事故以後の動きを考察します。また、再生可能エネルギーの開発状況を確認し、省資源、省エネルギーの取り組みの必要性について考察します。 国際的な経済格差と貧困の現状を理解し、なぜ貧困がなくなるのかを考察します。また、国際社会による経済援助の現状とその問題点について理解するとともに、開発援助のあるべき姿についても考察します。 現在の国際社会で実現すべき価値は何か、世界はその価値の実現のためにどのような条件を有しているか、日本はその価値の実現のために何をすべきか、日本にはそのためのどのような能力があるのかを考え、平和と公正な国際社会の構築に向けて日本のなすべきことを考察します。 	授業の取組 提出物 第5回 定期考査

4 課題・提出物等

・夏季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	政治・経済への関心を深め、現代社会が抱える問題点に対する追求への意欲や積極的関わりを持つ。	授業を通じて学んだ事柄を、実際の社会の中でどのように生かすべきか考え、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に係わる諸資料を新聞等のメディアを通して収集し、有用な情報を適切に活用している。	現代社会の抱える様々な諸課題についての基本的な原因・背景を理解し、今後の人生の中で生かすことができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発表内容 発問に対する発言内容 定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料の収集作業等の取り組み状況 発表の内容 提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

多様化する現代社会において、社会の諸問題を理解するとともに考察する力を育むことは、皆さんが社会の中で生きていくうえで重要です。「政治・経済」はまさに今日の現代社会の実情を捉えるに不可欠な科目です。「今日の現代社会」の構成員で、明日の社会を担う主役であるということを認識することで「政治・経済」に対する興味や関心、学ぶ意欲が高まることを期待しています。

平成29年度シラバス (公民)

学番22 新潟県立新発田高等学校

教科 (科目)	公民 (倫理)	単位数	2 単位	学年 系	1 学年 (普通科)
使用教科書	清水書院『高等学校 新倫理』新訂版				
副教材等	第一学習社『テオーリア 最新 倫理資料集』				

1 学習目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 本科目では現代社会やそこに生きるわれわれの抱えるさまざまな問題点について、既に古代から続けられてきたさまざまな議論を概観し、主として人文・社会科学的な手法を用い考察を試みます。受講生の皆さんには問題を客観的に把握し、既に議論されてきたことを理解し検討しながら、自らの思索を深めていくことを目指していただきます。
- ② 現在われわれが生き、自明のものとして認めている現代の社会やそこに存在するさまざまな価値や人間の生き方などを相対化する視点を養い、それが持っている問題性を明らかにし、より望ましい姿を追及する姿勢と態度を重視します。
- ③ ①・②を充分に達成しながら、生徒の皆さんにとって当面の大きな目標である大学入試 (特にセンター試験) に充分対応できるだけの知識の理解と習得を目指します。

3 指導計画 (「時間」の欄は授業時間 55 分を 1 時限とした時間数)

月	単元名	教材	主要学習領域	時	学習活動 (指導内容)	評価
4	第1編 人間としてのあり方・生き方	教科書・副教材・プリント	1 青年期の意義と自己形成 人間性の特質 人生における青年期 適応と個性の形成 2 青年期の課題と生き方 豊かな自己実現に向けて 現代社会における人間のあり方	5	・ 人間存在の独自性について述べながら、青年期の心理的特徴と青年期危機の克服について考察し、自己理解を深め自己実現のための思索を深めます。 ・ 社会における青年層の位置づけとその一般的特徴について考察し、社会における青年層の存在意義と可能性について理解を深めます。	小テスト・課題
5	第2編 人間としての自覚と生き方		1 人生における哲学 神話から哲学へ自然哲学とソフィスト ソクラテス、プラトン、アリストテレス ヘレニズム思想	6	・ ヨーロッパ文化の基底をなしている古代ギリシアの思想をその成り立ちから学ぶことによって、この思想の諸側面の普遍性と現代的意義について考察します。	第2回定期考査
6			2 人生における宗教 キリスト教 ユダヤ教、イエス 原始キリスト教とその後の展開 イスラーム 仏教 バラモン教、仏陀 原始仏教とその後の展開 3 人生の知恵 孔子と儒家思想、儒教の展開 道家思想	7	・ キリスト教の思想とイスラームの思想について、それぞれが持つ世界観や人間観を学び、その普遍性と現代的意義について考察します。 ・ 仏教の世界観・人間観を学び、その普遍性と現代的意義について考察します。 ・ 中国の古典思想特に儒学思想と道家思想についてそれぞれの世界観や人間観を学び、その普遍性と現代的意義について考察します。	
7	第3編 国際社会に生きる日本人としての自覚		1 日本の風土と外来思想の受容 日本の風土と伝統 日本の風土と人々の生活 古代の人々の考え方 仏教の伝来と隆盛 仏教の移入から平安仏教 仏教の土着化 鎌倉仏教	6	・ 日本思想を古代から順に学び、私たちの思考や価値判断の様式を形成している思想についてその普遍性と現代的意義について考察します ・ 仏教が日本の仏教者たちによって歴史的背景の中でどのように理解され広めていったのか考察を加えその普遍性と現代的意義について考察します。	
9			2 儒教の日本化 儒教の伝来と朱子学 陽明学、古学 3 国学と伝統文化 古典美と再発見 国学、近世庶民の思想 都市庶民の思想、農民の思想	7	・ 近世儒教の諸様相について考察を加えます。 ・ 近世民衆思想の諸様相について考察します。 ・ 国学の方法論と諸様相について考察を加えます。	小テスト・課題
10		教科書・副教材・プリント	4 西洋近代思想の受容 西洋文明との接触 啓蒙思想と民権論 キリスト教の受容 国家主義の高まりと社会主義 近代的自我の成立 近代日本の思想傾向への反省	7	・ 近代日本において欧米の思想や宗教がどのように受容され解釈されたのか考察を加えます。 ・ 大正・昭和期になると西洋の思想と向き合いそれを乗り越えようとする思想も現れましたその普遍性と現代的意義について考察します。	

第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚	11	1 人間の尊厳 人間の尊厳 ルネサンスと技術の進展 宗教改革とモラリストの思索	6	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳、科学的な思考など現代人の思考の枠組みの基礎的な部分が成立したこの時代について、その背景と影響、特徴を考察し、歴史的事象と思想との関係、その現代的意義と限界について理解を深めます。 	第4回定期考査
	12	2 自然と人間との関わり 地動説と機械的自然観 経験論と合理論 進化論 実証主義			
	1	3 民主社会における人間のあり方 英米市民革命とホブズ、ロック 仏啓蒙思想と革命、ルソー	6	<ul style="list-style-type: none"> 現代の議会制民主主義の妥当性を説明する種々の理論はこの時代を中心に確立していきました。「政治・経済」の既習事項を参考に現代の政治制度とその妥当性について理解を深めます。 人間理性への信頼、資本主義の進展と経済人としての人間のありかた、資本主義と人間疎外の進展など、この時代について、その背景と影響関係、特徴を考察し、歴史的事象と近代思想との関係、その現代的意義と限界について理解を深めます。 	
	2	4 自己実現と幸福 カントと国際平和論 ヘーゲルの国家論と法哲学			
3	5 幸福と功利 ベンサムとミル プラグマティズム	6	<ul style="list-style-type: none"> 近代社会に異議を申し立て、より自由で人間性が確保された新たな人間存在のあり方や社会のあり方を求めてさまざまな場で挑戦を続ける現代の思想家について、その背景と影響、特徴を考察し、歴史的事象と思想、その現代的意義について理解を深めます。 		
3	6 個人と社会 社会主義と実存主義 現代の資本主義とヒューマニズム				
3	7 近代とは何か 精神分析学 構造主義と分析哲学 ナチズム批判とフランクフルト学派 新しい「正義」の在り方 オリエンタリズム批判	6		第5回定期考査	
3	8 現代の諸課題と倫理	2			

4 課題・提出物等

・単元ごとの課題提出物などは別途指示します。

5 評価基準と評価方法

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
評価の観点・規準	思想や自分自身がどのようなかについて関心を高め、自己実現に向けての意欲を持ち、これに関わる課題について、自分や他者、社会との関わりから学ぶ態度が身に付いている。	学んだ事や他者からの意見などをもとに、主体的・科学的・論理的に思索・思考し、客観的で公正な判断をすることができる。	資料をメディアや文献等を通して収集し、必要な情報を取捨選択し、活用することができる。また活用の場面では、他者の意見も尊重しつつ、適切な方法で表現できる。	倫理思想や現代社会の特質についての基礎・基本的な知識を正しく理解し、自らの人生観・世界観を形づくるための知識として身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発表内容・発問に対する発言内容 定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料の収集作業等の取り組み状況 発表の内容 提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 定期考査、小テスト
以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

倫理では我々の思考や価値判断の様式を根本において形成している枠組みのようなものを特に過去の生きた人たちの遺産をもとに考えてみたいと思います。後世の人たちの評価は様々なものであっても、その時代を生きた人たちが真摯に追求しようとしたものを現代の私たちの目で見直すことは、現代社会を生きる私たちにとって有用なことに思われます。「時代が変わると変わってゆくもの」「時代が変わっても変わらないもの」「時代が変わるとともに変えていかなくてはならないもの」……。様々なことに思いをはせる時間でありたいと思います。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	地歴（世界史A）	単位数	2単位	学年 系	2学年（普通科文系）
使用教科書	『世界史A』（東京書籍）				
副教材等	『グローバルワイド 最新世界史図表』（第一学習社）				

1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- 1.風土、宗教、民族などに着目させながら、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質を把握させる。また、諸地域相互の交流に触れ、世界の一体化につながる交流圏の成立に気付かせる。
- 2.16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理科させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。
- 3.地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について考察させる。その世界の動向と日本とのかかわりについて着目させる。

3 指導計画 < >内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	評価方法
4	第1部：近・現代世界史の背景—諸地域世界とその交流—	教科書 副教材	1 ユーラシアの諸地域世界<5>	中国を中心とした東アジア世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 インドを中心とした東アジア世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 イラン文明からイスラム世界の形成について地理的環境を踏まえながら、理解させる。	第1回定期考査
5	第2部：成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ		2 ユーラシアの交流圏<2> 3 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ<4>	ヨーロッパ世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 諸地域世界が決して孤立していたわけではなく、活発な交流を行っていたことやその影響について理解させる。	
6			3 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ<6>	アジアの専制君主を頂点とした社会の変遷を王朝の興亡を軸に理解させる。キリスト教的世界観を克服し、主権国家を中心とした近代国家の萌芽過程を理解させる。 ヨーロッパの大航海時代を契機に一体化していく世界の様相を理解させる。	
7			4 大西洋世界の変容とその波及<2> 5 産業化社会の拡大と成熟<2>	市民革命を経て、欧米近代国家が成立し、成長していく過程を理解させる。 欧米の植民地支配に対して、アジア	第2回定期考査 夏季休業の課題

			6 アジア諸国の変貌と日本<2>	諸国の対応やその後の変化を理解させる。 欧米の植民地支配の実情を理解させる植民地支配に対する民族運動がどのように展開されたかを理解する。	
9 10			7 帝国と民族の時代<12>		第3回定期考査
11 12	第3部：現代の世界と日本		8 二つの世界大戦の時代<12>	20世紀という時代の特徴を把握させる。 世界大戦の背景と影響を理解する。	第4回定期考査
1			9 冷戦と民族独立の時代<6>	冷戦構造が現代世界に与えた影響を理解させる。	
2			10 グローバル化のなかの危機<6>	冷戦以後の複雑化する国際関係を理解させる。	第5回定期考査
3	終章：現代の諸問題		終章 21世紀に生きる<5>	1年間の学習を踏まえ、現代世界の抱える問題について理解を深める。	

4 課題・提出物等

・地図ワーク等（別途指示）

5 評価基準と評価方法

評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
標準	世界の歴史や現代の諸問題に関心を持ち、意欲的に求しようとしている。	世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する思考力を持っている。	資料を自分の力で読み取り、考え、判断することができる。	人類の歩みを理解し、現代社会が抱える諸問題の背景について理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発表内容 発問に対する発言内容 定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の判読作業の取り組み状況 発表の内容 提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 提出物の内容 発問に対する発言内容 定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

現代社会は多くも問題や課題を抱えています。そこには、歴史の展開の中で形作がしゅうられてきた複雑な要因が横たわっています。従って、現代世界が抱える諸問題を理解し、将来への展望を開くためには、歴史的知識が不可欠なのです。私たちが生きる現代社会への問題意識を持って世界史を学んでほしいと思います。歴史は過去を学ぶのではなく、現代を知るために学ぶものです。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(世界史B)	単位数	4単位	学年系	2学年(普通科 文系)
使用教科書	『詳説 世界史B』(山川出版社)				
副教材等	『世界史B用語集』(山川出版社) 『最新世界史図説 タペストリー』(帝国書院) 『新世界史研究ノート標準編』(啓隆社)				

1 学習目標

世界の歴史の枠組みと展開を諸資料に基づき日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

以下に設定する世界史の様々な課題を探究する

- ①日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活における歴史に関わる主題を設定し考察させる。
- ②人類が自然環境に適応しながら諸文明を構築し、やがてよる大きな地域世界を形成した行程を把握させる。
- ③ユーラシアの海域及び内陸ネットワークを背景に、諸地域世界の交流が形成・再編されたことを把握させる。
- ④アジアの繁栄と欧州の拡大を背景に、諸地域世界の結合の進展、主権国家体制を整え工業化を達成した欧州の進出により、世界の構造化の進展と社会の変容の促進を理解させる。
- ⑤現代世界の地球規模での一体化と、二度の世界大戦や冷戦を経て、相互依存をいっそう強めたことを理解させ、今日人類が直面する課題を歴史的観点から考察させる。
- ⑥以上のようなテーマから、その内容を調査研究する方法についても考察し、レポートの作成などを通じて思考力・判断力・表現力を身につける。

3 指導計画 ()内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域 (時間数)	学習活動(指導内容)	評価
4	第1章 オリエントと地中海世界	教科書・副教材・プリント	①古代オリエント世界 ②ギリシア世界 ③ローマ世界 ④インドの古典文明 ⑤東南アジアの諸文明 ⑥中国の古典文明 ⑦南北アメリカ文明 (10)	・オリエント各地域・ギリシア世界・ローマ世界の文明・政治の特徴を理解するとともに、倫理・政経で学んだ内容と関連づける。 ・インドの宗教・哲学の影響を日本史・倫理と結びつける ・殷～漢までの政治・文化の日本への影響について考察する。	定期 考 査 ・ 授 業 態 度 等
	第2章 アジア・アメリカの古代文明		①草原の遊牧民とオアシスの定住民 ②北方民族の活動と中国の分レレ ③東アジア文化圏の形成 ④イスラーム世界の形成 ⑤イスラーム世界の発展 ⑥インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 (13)	・魏晋南北朝～宋代に伝播した制度(特に隋・唐)・文化(特に儒教)の、日本への影響について考える。 ・13世紀より急速に勢力をのぼし、大帝国を築いたモンゴル民族の興亡を理解し、元寇と鎌倉幕府等に関連づける。 ・東西に大きく広がるイスラーム諸地域の現代史への影響を学ぶ基礎をつくる。 ・活発な交流により、各地域世界にイスラーム教が浸透していく過程を理解する。	
6	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展		①西ヨーロッパ世界の成立 ②東ヨーロッパ世界の成立 ③西ヨーロッパ中世世界の変容 ④西ヨーロッパの中世文化 (13)	・西ローマ帝国滅亡後の中世西欧・ビザンツ帝国と現代の国の存在を比較する。 ・倫理の知識を活用し、教父哲学・スコラ哲学とギリシア・イスラーム哲学を関連づける。	定期 考 査 ・ 授 業 態 度 等
7	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄		①トルコ化とイスラーム化の進展 ②東アジア諸地域の自立化 ③モンゴルの大帝国 ④東アジア世界の動向 ⑤清代の中国と隣接諸地域 ⑥トルコ・イラン世界の展開 ⑦ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 (13)	・古代から作り上げられた交易のネットワークを知り、古代日本から戦国・江戸の交易について考える。 ・14・15世紀以降のアジア諸地域の繁栄を確認するとともに、その後のヨーロッパ諸国との関わりと現代史に与える影響について、考察する。	
8	夏季休業講座				
9	第8章 近代ヨーロッパ世界の形成		①ヨーロッパ世界の拡大 ②ルネサンス ③宗教改革 ④ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 (13)	・大航海時代におけるユーラシアのネットワークを知るとともに、日本社会へ与えたルネサンス・宗教改革の影響を考察する。 ・日本と西欧の国家の認識の違いを考える。	定期 考 査 ・ 授 業 態 度 等
10	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開		①重商主義と啓蒙専制主義 ②ヨーロッパ諸国の海外進出 ③17～18世紀のヨーロッパ文化と社会 (13)	・欧州諸国の海外進出、さらに科学革命と文化を、欧州相互の関係と日本との関わりにも留意して理解する。	

11	第10章 近代ヨーロッパ ・アメリカ世界の 成立 第11章 欧米における近代 国民国家の発展	教科書 ・ 副教材 ・ プリント	①産業革命 ②アメリカ独立革命 ③フランス革命とナポレオン ④ウィーン体制の成立 ⑤ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 ⑥南北アメリカの発展 ⑦19世紀欧米の文化 (13)	・18世紀後半から19世紀にかけての欧州とアメリカの諸革命を扱い、社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことより、ヨーロッパを中心として近代が確立したことを理解し、この時代の日本に注目する。 ・アメリカ合衆国では西部への領土拡張に着目し、その後の南北戦争後の産業の発展を理解する。ペリー来航などを参考に提示。	定期 考査 ・ 授業 態 度 等	
12	第12章 アジア諸地の動 揺 第13章 帝国主義とアジ アの民族運動		①オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 ②南アジア・東南アジアの植民地化 ③東アジアの激動 ④帝国主義と列強の展開 ⑤世界分割と列強対立 ⑥アジア諸国の改革と民族運動 (10)	・欧州諸国の進出により、アジア諸国は経済面だけでなく、政治・社会・文化の面でもヨーロッパの影響を強く受けたこと、日本への影響を理解する。 ・アジア諸国は、製品市場、原料供給地として欧州を中心とする分業体制に組み込まれたことを学ぶ。日本への影響を考える。 ・各地で解放と独立を目指すナショナリズムの運動が展開したことと日本との関係を把握する。		
1	第14章 二つの世界大戦		①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ③アジア・アフリカ地域の民族主義 ④世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ⑤第二次世界大戦 (10)	・第一次大戦の経過とロシア革命の影響について学ぶ。 ・戦間期の国際協調の進展とヴェルサイユ体制の内包した問題点について理解する。 ・大戦の日本への影響を考察する。		定期 考査 ・ 授業 態 度 ・ レ ポ ー ト の 作 成 ・ 発 表 等
2	第15章 冷戦と第三世界 の独立		①戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ②米・ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ③第三世界の台頭と米・その歩みより ④石油危機と世界経済の再編 (10)	・大戦後の中国・トルコ・インドなどの民族運動の新しい潮流に着目する。 ・世界恐慌によって、国際情勢は協調から対立に一変し、第二次大戦にいたる経過を学ぶ。 ・大戦後の国際機関を政経資料で確認する。 ・東西両陣営の形成と対立、危機と平和共存を経て冷戦の崩壊を学ぶ。 ・アジア・アフリカ諸国の独立と苦難の歩み、EUなどの地域統合を関連づけて理解する。		
3	第16章 現代の世界		①社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 ②途上国の民主化と独裁政権の動揺 ③地域紛争の激化と深刻化する貧国 ④現代文明の諸特徴 (10)	・今後の国際社会における日本の立場を世界的観点から考える。 ・レポート作成などを基本事項を中心に全範囲をまとめながらすすめる。		

4 課題・提出物等

- ・夏季休業中と冬季休業中の課題は、別途指示します。
- ・各生徒の到達度にしたがって課題（レポート等）を適宜設定します。

5 評価規準と評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の歴史や諸地域の事象、現代の諸問題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	世界の歴史や諸地域の事象、現代の諸問題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する思考力を持っている。	資料を自分の力で読み取り、考え、判断することができる。	各地域世界の古代文明が成立する過程と特徴、そして各世界間が交流する様子について理解している。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト	・資料の判読作業の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

世界と日本の歴史の時間的・空間的なスケールを「暗記」だけではなく「理解」していきましょう。そのためには用語を「覚え」、流れを「覚え」、そしてその時・その場所で暮らしていた人たちの考えや生活を想像してみましょう。現在を生きる私たちとの共通点や違いについて考えるとき、きっと世界史が楽しく、また意義あるものに思えるはずです。人のすばらしさや愚かさを考察する一助になればと思います。

平成29年度シラバス（地理歴史）学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(日本史A)	単位数	2	学年 系	2学年普通科文系
使用教科書	清水書院『高等学校日本史A最新版』				
副教材等	帝国書院「図説日本史要覧」				

1 学習目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的史野に立ち我が国を取巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

・我が国の近現代史を中心とする基礎的基礎的事項や基本的な流れをわかりやすく考察させます。
 ・世界史Bの選択者がこの科目を履修するので、もちろん我が国の近現代史を中心にした授業展開にはなりますが、世界史的な流れを常に配慮して授業を進めていくよう努力します。

3 指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	評価方法
4	・ 私たちの時代と歴史	教科書 副教材	・ 近代史を学ぶ前に(2h) ・ 近代・現代という時代(2h)	前近代史から近現代史へつながる動きを整理して近代・現代を学ぶ課題を理解させる。	
5	・ 国際環境の変化と幕藩体制の動揺	山川出版社「日本写真集」	・ アジアの激動と日本の開国(2h) ・ 江戸幕府の滅亡(1h)	幕藩体制の動揺期から開国に至るまでの内外の展開を近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出に着目して理解させる。	当該期の身近な地域における歴史上の出来事や人物に関するレポートの提出
6	・ 明治維新と近代国家の形成		・ 明治維新(1h) ・ 富国強兵(2h) ・ 初期の外交(1h)	欧米文化の導入と明治政府による諸制度	
7	・ 立憲政体の成立と国際的地位の向上		・ 殖産興業と社会の変容(1h) ・ 自由民権運動(2h) ・ 立憲制の成立(2h) ・ 立憲政治の展開(2h) ・ 日清・日露戦争(4h) ・ 産業革命と社会の変容(2h) ・ 明治の文化(2h)	の改革に伴う社会・文化の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでを理解させる。 条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目して、我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解させる。	
9	・ 第一次世界大戦と日本	教科書 副教材	・ 政党政治の展開(3h) ・ 第一次世界大戦とワシントン体制(4h)	政党政治の展開と大衆文化の形成、資本主義の発達と国民生活の変化、第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結にいたる内外情勢への変化について世界史的視野から理解させる。	第2回定期考査
10		山川出版社「日本写真集」	・ 経済、社会の変容、市民文化(3h)		
11			・ 昭和の恐慌(3h)		
12	・ 第二次世界大戦と日本		・ 政党内閣期の内		

1	本		政と外交 (4 h) ・満州事変 (3 h) ・日中戦争 (5 h) ・重化学工業化と 経済統制 (4 h) ・太平洋戦争 (5 h)		
2	・戦後政 治の動 向と国 際社会	教科書 副教材	・占領と民主化 (2 h) ・冷戦の開始と日 本の復興 (1 h) ・55年体制 (1 h) ・高度成長期の経 済と社会 (1 h) ・経済大国 (1 h) ・現代の世界と日 本 (1 h)	占領下の民主政策の実施、新憲法 の成立 平和条約の締結と独立、国際社会へ の復帰、経済の復興と高度成長、 国民生活の向上、新しい外交関係の 確立などを経て今日に至った過程 について、世界の動向に関連づけて 理解させる。	第5回定期考査
3	・経済の 発展と 国民生 活の変 化 ・現代の 日本と 世界	山川出版社 「日本写真 集」			

4 課題・提出物等

5月および10月に身近な地域における「歴史上の人物」と「歴史的出来事」に関するレポートを提出を求めます。また、定期的にノート・プリントの提出を求めます。

5 評価規準と評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	授業中の取り組みなどから、日本史に興味・関心をもって臨んでいる。	教師の発問に対して、真剣に考え、応答できる。	史資料を自分の力で読みとり、考え、判断することができる。	日本史の基本的事項及び歴史的流れを理解している。
評価方法	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 提出物の内容・学習活動への参加状況	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 定期考査・小テスト	提出物の内容 発問に対する発言内容	定期考査・小テスト 学習活動への参加状況

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

日本史Aは世界史Bをほぼ受験科目としている生徒が履修することになりますが、この日本史Aで我が国の近現代史を中心に勉強することは、世界史Bの近現代史を理解する上で大いにその視野を広げるものであると考えます。近現代史をとかく網羅的に各国史とその関係を考察する世界史的視点と、一国史的な観点からじっくり日本の近代国家の推移を考察する視点を重ねれば、より厚みのある近現代史像が構築されるのではないのでしょうか。興味を持って授業に望むことが大切だと思います。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(日本史B)	単位数	4単位	学年系	2学年普通科文系
使用教科書	山川出版社「詳説日本史B」				
副教材等	帝国書院「図説日本史通覧」, 山川出版社「改訂版日本史用語集」, とうほう「ウィニングコンパス日本史の整理と演習」				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

原始社会から現代までの政治・社会・文化の変化とその特色について考察させる。指導にあたっては、世界史との関連や地理的視点から日本を見つめる姿勢を大切にするとともに、様々な史資料を読み解く力を育成する。

3 指導計画 < >内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	評価方法
4	○日本文化のあけぼの	教科書 副教材	・旧石器、縄文、弥生<3> ・古墳文化<4>	・自然環境の変化などに着目しながら、原始社会について理解させる ・東アジア世界から強い影響を受けて古代国家が形成されたことを理解させる。 ・東アジア世界の変化により古代国家が推移したことを理解させる。	第1回考査
5	○律令国家の形成		・推古朝の政治と文化<3> ・律令国家の成立<3> ・奈良時代の政治と文化<4> ・平安初期の政治と文化<4>		
6	○貴族政治と国風文化		・摂関政治と国風文化<4> ・地方政治と武士<4>		
7	○中世社会の成立 ○武家社会の成長	教科書 副教材	・院政と平氏政権<3> ・鎌倉幕府と武家社会<6> ・元寇と幕府の衰退<4> ・鎌倉文化<3> ・室町幕府の成立<6> ・応仁の乱と幕府の衰退<5> ・室町文化<3> ・戦国時代<2>	・鎌倉幕府の政治体制の推移、中国との関わりからの新文化の展開について理解させる。 ・倭寇や日明貿易など東アジア世界との関係に着目しながら、政治や文化、社会の多様な展開について理解させる	第2回考査
8	○幕藩体制の確立	教科書 副教材	・織豊政権と桃山文化<4> ・幕藩体制の成立<6>	・近世社会の特質と現代にも続くその影響について理解させる。 ・農業や商工業の発展と文化の特色を理解させる。	
9	○幕藩体制の展開		・幕政の安定<4> ・経済の発展<3> ・元禄文化<3>		

	○幕藩体制の動揺		・幕政改革と幕府の衰退<6> ・宝暦、天明、化政文化<3>	・この時期に近代化の基盤が形成されたことを理解させる。	
10	○近代国家の成立	教科書 副教材	・開国と幕末の動乱<5> ・明治維新<6> ・立憲国家の成立と 日清日露戦争<6> ・産業革命と明治文化<5>	・欧米諸国の影響下で進められた日本の近代化とその特質について考察させる。	第3回考査
11	○近代日本とアジア		・第一次世界大戦と日本<5> ・ワシントン体制<5> ・恐慌と軍部の台頭<3> ・第二次世界大戦<4>	・なぜ戦争への道をひた走ることになったか、また、戦争の惨禍について考察させる。	
12	○占領下の日本 ○高度成長の時代		・占領と改革<3> ・冷戦の開始と講和<3> ・55年体制<3> ・高度成長<3>	・民主化政策とその転換について考察させる。 ・東西冷戦の影響、高度経済成長とその問題点について、考察させる。	第4回考査
1	○激動する世界と日本		・経済大国への道<3> ・冷戦の終結と日本社会の動揺<3>	・経済大国への歩みの過程を理解させ、冷戦終結後の国際平和のあり方について考察させる。	第5回考査

4 課題・提出物等

定期的に基本事項を押さえるための小テストを実施します。また、適宜レポート課題も出しますので期日に間に合うように提出して下さい。定期考査だけでなく、これらの小テストや提出物などについても評価の対象とします。

5 評価規準と評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	授業中の取り組みなどから、日本史に興味・関心をもって臨んでいる。	教師の発問に対して、真剣に考え、応答できる。	史資料を自分の力で読みとり、考え、判断することができる。	日本史の基本的事項及び歴史的流れを理解している。
評価方法	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 提出物の内容・学習活動への参加状況	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 定期考査・小テスト	提出物の内容 発問に対する発言内容	定期考査・小テスト 学習活動への参加状況

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

日本列島で生活してきた人々の歩みを政治・社会・文化など様々な側面からみていきます。単なる事項の暗記ではなく、様々な要素が関連して展開してきた日本社会の歴史を学習してほしいと思います。また、自国の歴史を知ること、国際化社会に対応する資質を身につけてほしいと思います。

平成29年度シラバス(地理歴史) 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(地理B)	単位数	4単位	学年 系	2学年(普通科 文系)
使用教科書	帝国書院『新詳地理B』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表GEO』、とうほう『ニューコンパスノート 地理』 二宮書店『地理統計要覧2017年版』				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ① 作業学習を取り入れながら基礎的な知識の習得を重視するとともに、地理的な見方や考え方を体系的に身につけることを目指します。更には、地図や統計に示された内容を理解し、これらの資料を上手く活用できる能力を養います。
- ② 自然環境・資源・産業・都市・村落、生活文化等の授業を通して、現代世界の特色を体系的に理解することを目指します。
- ③ 州・大陸規模の世界全地域に関して、自然環境や歴史的背景をふまえ、生活の変化や産業・経済などを学ぶことにより、地域の本質や今後の課題、展望を学びます。

3 指導計画 () 内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	評価方法
4	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	教科書 副教材 プリント	①現代世界の地図(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な時代や種類の地図の読図を通して、各時代の人々の世界観を捉え、現代の地図や身近な地図を学びます。 ・球体を地図表現した場合の特性や時差の求め方を通して、地理的技能を身につけます。 ・地理情報の統計地図化などの活動を通して、地理的技能を身につけます。 	授業の取組 課題提出物
			②地図の種類とその利用(3)		
5	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境		①世界の地形(12) ②世界の気候(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害や恩恵など人間生活との関わりを考察します。 ・地形図などの地図を活用して調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身につけます。 	第1回定期考査 授業の取組 課題提出物
6			③日本の自然の特徴と人々の生活(2) ④環境問題(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察します。 ・地形や気候の特徴と、自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察します。 ・世界の環境問題の成因や特徴と対策を大観し、事例を考察します。 	第2回定期考査
7	2章 資源と産業		①産業の発達と変化 ②世界の農林水産業(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察します。 ・農業地域区分や農林水産業の現状と課題、日本の農林水産業の課題を考察します。 	第3回定期考査 授業の取組 課題提出物
8		③食料問題(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、事例を考察します。 		
9		④世界のエネルギー・鉱産資源(4) ⑤資源・エネルギー問題(2) ⑥世界の工業(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察します。 ・世界と日本の資源・エネルギー問題を考察します。 ・工業の発達や立地、世界の工業地域や世界と日本の工業の現状と課題を考察します。 		
10		⑦第3次産業(1) ⑧世界を結ぶ交通・通信(2) ⑨現代世界の貿易と経済圏(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察します。 ・交通や通信の発達による一体化と地域差を考察します。 ・世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察します。 		
	3章 人口、村落・都市		①世界の人口(1) ②人口問題(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界人口の分布や動態、人口転換などを考察します。 ・世界の人口問題を大観し、事例を考 	授業の取組 課題提出物

11		③村落と都市(6) ④都市・居住問題(3)	察します。 ・村落と都市の立地や発達・機能や日本の都市の特徴を考察します。 ・世界の都市・居住問題を大観し、要因と発生のしくみを事例で考察し、解決には何が必要かを考えます。	
	4章 生活文化、民族・宗教	①生活文化(2) ②民族と宗教(3) ③現代世界の国家(1) ④民族・領土問題(3)	・衣食住を取りあげ、地域的差異と世界的な画一化について考察します。 ・民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察します。 ・国境と領域のきまりや国家の分類について考察します。 ・民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察します。	授業の取組 課題提出物 第4回定期考査
12	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域	①地誌の考察方法 ②東アジア(7) ③東南アジア(4) ④南アジア(3) ⑤西アジアと中央アジア(3) ⑥北アフリカとサハラ以南のアフリカ(3) ⑦ヨーロッパ(5) ⑧ロシア(2) ⑨アングロアメリカ(5) ⑩ラテンアメリカ(3) ⑪オセアニア(3)	・中国と韓国について、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・ASEAN諸国について、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・インドについて、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・西アジアと中央アジアについて、類似的な二つの地域を比較して考察します。 ・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、対照的な性格の二つの地域を比較して考察します。 ・ヨーロッパについて、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・ロシアについて、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・アングロアメリカについて、多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察します。 ・ラテンアメリカについて、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察します。 ・オセアニアについて、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察します。	授業の取組 課題提出物 第5回定期考査 授業の取組 課題提出物
1				
2				
3				
	3章 現代世界と日本	現代世界と日本(1)	・現代世界における日本の特色について、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。	

4 課題・提出物等

・夏季休業中や冬季休業中の課題や各单元ごとの作業課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価の観点・規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト	・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

この科目では、地形図や統計資料の読みとりを行いながら、世界の様々な地域の特色について考察していきたいと思います。日本以外の国の産業や文化を学びますが、そこから日本との共通点、相違点をみつけ、自分たちの社会を知るきっかけになってくれればと考えています。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(地理B)	単位数	3単位	学年 系	2学年(普通科 理系、理数科)
使用教科書	帝国書院『新詳地理B』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表GEO』、とうほう『ニューコンパスノート 地理』 二宮書店『地理統計要覧2017年版』				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ① 作業学習を取り入れながら基礎的な知識の習得を重視するとともに、地理的な見方や考え方を体系的に身につけることを目指します。更には、地図や統計に示された内容を理解し、これらの資料を上手く活用できる能力を養います。
- ② 自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等の授業を通して、現代世界の特色を理解することを目指します。

3 指導計画

() 内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	評価方法		
4	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境	教科書 副教材 プリント	①現代世界の地図(1)	・様々な時代や種類の地図の読図を通して、各時代の人々の世界観を捉え、現代の地図や身近な地図を学びます。	授業の取組 課題提出物		
5			②地図の種類とその利用(3)	・球体を地図表現した場合の特性や時差の求め方を通して、地理的技能を身につけます。			
6			③地理情報の地図化(1)	・地理情報の統計地図化などの活動を通して、地理的技能を身につけます。	授業の取組 課題提出物		
			7	地形図(2)		・地形図の読図を通して、基本的な地理的技能を身につけます。	
8			①世界の地形(12)	①世界の大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害や恩恵など人間生活との関わりを考察します。 ・地形図などの地図を活用して調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身につけます。	第1回定期考査 授業の取組 課題提出物		
						②世界の気候(7)	・気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察します。
						③日本の自然の特徴と人々の生活(2)	・地形や気候の特徴と、自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察します。
9			④環境問題(3)	・世界の環境問題の成因や特徴と対策を大観し、事例を考察します。	第2回定期考査 授業の取組 課題提出物		
10			①産業の発達と変化	・自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察します。			
11			2章 資源と産業	②世界の農林水産業(10)	・農業地域区分や農林水産業の現状と課題、日本の農林水産業の課題を考察します。	第3回定期考査 授業の取組 課題提出物	
	③食料問題(3)	・世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、事例を考察します。					
12	④世界のエネルギー	・エネルギー資源の利用と分布、鉱産資	第4回定期考				

1		<ul style="list-style-type: none"> 一・鉱産資源(4) ⑤資源・エネルギー問題(3) ⑥世界の工業(11) ⑦第3次産業(2) ⑧世界を結ぶ交通・通信(3) ⑨現代世界の貿易と経済圏(4) 	<p>源の分布を考察します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の資源・エネルギー問題を考察します。 ・工業の発達や立地、世界の工業地域や世界と日本の工業の現状と課題を考察します。 ・現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察します。 ・交通や通信の発達による一体化と地域差を考察します。 ・世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察します。 	査 授業の取組 課題提出物
2	3章 人口、 村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> ①世界の人口(2) ②人口問題(4) ③村落と都市(7) ④都市・居住問題(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界人口の分布や動態、人口転換などを考察します。 ・世界の人口問題を大観し、事例を考察します。 ・村落と都市の立地や発達・機能や日本の都市の特徴を考察します。 ・世界の都市・居住問題を大観し、要因と発生のしくみを事例で考察し、解決には何が必要かを考えます。 	授業の取組 課題提出物 第5回定期考 査
3	4章 生活文化、 民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ①生活文化(3) ②民族と宗教(3) ③現代世界の国家(1) ④民族・領土問題(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住を取りあげ、地域的差異と世界的な画一化について考察します。 ・民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察します。 ・国境と領域のきまりや国家の分類について考察します。 ・民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察します。 	授業の取組 課題提出物

4 課題・提出物等

・夏季休業中や冬季休業中の課題や各单元ごとの作業課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
観 点 規 準	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

この科目では、地形図や統計資料の読みとりを行いながら、世界の様々な地域の特色について考察していきたいです。日本以外の国の産業や文化を学びますが、そこから日本との共通点、相違点をみつけ、自分たちの社会を知るきっかけになってくれればと考えています。

平成29年度シラバス（公民） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	公民総合A	単位数	2単位	学年・系	2学年（普通科・文系選択）
準教科用図書	『政治・経済』（東京書籍）、『高等学校 新倫理』（清水書院）				
副教材等	『政治・経済 資料2017』（とうほう）、テオリア最新倫理資料集（第一学習社）、グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）、『新詳日本史』（浜島書店）など				

1 学習目標

「政治・経済」を中核とした公民分野の総合的理解を図り、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。そのために、1年次で学んだ「政治・経済」「倫理」の学習成果をいかすとともに、「日本史」「世界史」との関連を図りながら、歴史的背景を学ぶなど、学習内容の理解をより一層深めていく。具体的には、【基礎的学習】では、現代史を中心とした「日本史」「世界史」の内容と関連させながら、現代の政治や経済の諸課題についての基礎的知識の定着を図る。【発展的学習】では、「世界史」「日本史」の副教材を活用しながら、各学習領域の内容についての歴史的背景等も学習するなど、より発展的な理解を図る。【応用的学習】では、「倫理」の学習成果をいかしながら、テーマ別の学習を行い、レポートや小論文の作成等を通じて、資料を効果的に活用し、主体的に考察し、公正な判断力や良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 現代日本の諸課題・国際社会の諸課題について具体的な事例を通じて理解を深め、政治・経済に関わる様々な現象をとらえるための基礎的な見方や考え方を身に付けさせる。
- ② 今までの政治分野・経済分野の学習の総まとめとして、現代社会の諸課題の本質や問題点をとらえ、課題を主体的に考えることを通じて、望ましい解決の在り方を多様な角度から考えられるよう学習する。

3 指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	評価方法	
4	【基礎的学習】	教科書 副教材	「戦後日本政治と日本国憲法」	現代史を中心とした「日本史」の内容との関連を図り、現代の民主政治の基本原則と日本国憲法の内容を理解するとともに、基礎的な見方や考え方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回定期考査 ・ 授業の取組 ・ 提出物 	
5	【基礎的学習】	教科書 副教材	「戦後国際政治の成立と変遷」	現代史を中心とした「世界史」の内容との関連を図り、「現代の国際政治」の内容を理解するとともに、基礎的な見方や考え方を身につける。		
6	【基礎的学習】	教科書 副教材	「戦後日本経済の発展と現代日本経済」	現代史を中心とした「日本史」の内容との関連を図り、「現代の経済の仕組みと特質」の内容を理解するとともに、基礎的な見方や考え方を身につける。		
7	【基礎的学習】	教科書 副教材	「戦後国際経済の確立と現代国際経済」	現代史を中心とした「世界史」の内容との関連を図り、「国民経済と国際経済」の内容を理解するとともに、基礎的な見方や考え方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回定期考査 ・ 授業の取組 ・ 提出物 	
8	夏季休業中の課題：レポート作成（新聞記事の切り抜き）					
9	【発展的学習】	教科書 副教材	「近代民主政治のあゆみ」 「日本の民主政治のあゆみ」	学習領域の内容について、「世界史」や「日本史」の副教材を活用するなど、歴史的背景等も含めた、内容についての発展的な理解を深める。		
10	【発展的学習】	教科書 副教材	「資本主義経済と社会主義経済の発展と変容」 「日本経済のあゆみ」	学習領域の内容について、「世界史」や「日本史」の副教材を活用するなど、歴史的背景等も含めた、内容についての発展的な理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回定期考査 ・ 授業の取組 ・ 提出物 	
					<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回定期考査 ・ 授業の取組 ・ 提出物 	

11	【発展的学習】	教科書 副教材	「国際政治の展開」 「国際経済の展開」	学習領域の内容について、「世界史」や「日本史」の副教材を活用するなど、歴史的背景等も含めた、内容についての発展的な理解を深める。	
12	【応用的学習】	教科書 副教材	「持続可能社会と環境問題」 「少子高齢化と社会保障」	・テーマに関する基礎的内容を理解する。 ・新聞やインターネット等の活用により、テーマに関する資料等を収集し、レポートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回定期考査 ・授業の取組 ・提出物
1	【応用的学習】	教科書 副教材	「情報化社会」 「人種民族問題と異文化理解」	・テーマに関する基礎的内容を理解する。 ・新聞やインターネット等の活用により、テーマに関する資料等を収集し、レポートにまとめる。	
2	【応用的学習】	教科書 副教材	「南北問題と国際協力」 「グローバル化と現代社会」	・テーマに関する基礎的内容を理解する。 ・新聞やインターネット等の活用により、テーマに関する資料等を収集し、レポートにまとめる。	
3	【応用的学習】	教科書 副教材	まとめ	・テーマを1つ選び、テーマに即した小論文を作成する。	

4 課題・提出物等

- ・夏季休業を活用して、レポート作成（新聞記事の切り抜き）に取り組み、提出する。
- ・単元ごとのまとめとして、演習問題等に取り組み、提出する。
- ・【応用的学習】として、レポートや小論文の作成等に取り組み、提出する。

5 評価規準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の観点・規準	学習に主体的に取り組み、現代の日本や国際社会の諸課題について、その解決策等を考察するなど、積極的に関わろうという態度を持つ。	学習した内容について主体的に考察し、公正な判断力を持つとともに、現代の諸課題とその解決策等について論理的に分析し表現することができる。	現代の諸課題を考察し論述するに当たって、多様な媒体を駆使しながら、参考となる資料等を的確に選択し、理論構築のために有効に活用することができる。	学習内容についての基礎的な概念や理論について理解を深め、現代の諸課題を的確にとらえることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点で踏まえ、総合的に評価する。

6 担当者からの一言

現代社会に生きる皆さんが、将来、我が国を担う「未来の俊傑」となるために必要な「知識」「判断力」「表現力」等を養います。

皆さんも、日頃から社会的事象に興味・関心を持ち、ニュースや新聞など見たり、読んだりするなどし、主体的に学習に取り組んでいきましょう。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(世界史A)	単位数	2単位	学年 系	3学年(普通科理系・理数科)
使用教科書	『世界史A』(東京書籍)				
副教材等	『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)				

1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- 1.風土、宗教、民族などに着目させながら、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質を把握させる。また、諸地域相互の交流に触れ、世界の一体化につながる交流圏の成立に気付かせる。
- 2.16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理科させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。
- 3.地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について考察させる。その世界の動向と日本とのかかわりについて着目させる。

3 指導計画 <>内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	評価方法
4	第1部:近・現代世界史の背景 —諸地域世界とその交流—	教科書 副教材	1 ユーラシアの諸地域世界<4> 2 ユーラシアの交流圏<4>	中国を中心にした東アジア世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 インドを中心にした東アジア世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 イラン文明からイスラム世界の形成について地理的環境を踏まえながら、理解させる。	第1回定期考査
5	第2部:成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ		3 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ<8>	ヨーロッパ世界の形成と特質を地理的環境を踏まえながら、理解させる。 諸地域世界が決して孤立していたわけではなく、活発な交流を行っていたことやその影響について理解させる。 アジアの専制君主を頂点とした社会の変遷を王朝の興亡を軸に理解させる。 キリスト教的世界観を克服し、主権国家を中心とした近代国家の萌芽過程を理解させる。 ヨーロッパの大航海時代を契機に一体化していく世界の様相を理解させる。	
6			4 大西洋世界の変容とその波及 <4> 5 産業化社会の拡大と成熟<4>	市民革命を経て、欧米近代国家が成立し、成長していく過程を理解させる。	第2回定期考査 夏季休業の課題
7			6 アジア諸国の変貌と日本 <4>	欧米の植民地支配に対して、アジア諸国の対応やその後の変化を理解させる。	
8			7 帝国と民族の時代<6>	欧米の植民地支配の実情を理解させる 植民地支配に対する民族運動がどのよ	

9	第3部：現代の世界と日本		8 二つの世界大戦の時代<8>	うに展開されたかを理解する。 20世紀という時代の特徴を把握させる。 世界大戦の背景と影響を理解する。	第3回定期考査
10		9 あらたな国際秩序の形成<8>	冷戦構造が現代世界に与えた影響を理解させる。		
11		10 グローバル化と地域変容<8>	冷戦以後の複雑化する国際関係を理解させる。		
12	終章：現代の諸問題		終章2 1世紀に生きる<6>	1年間の学習を踏まえ、現代世界の抱える問題について理解を深める。	第4回定期考査

4 課題・提出物等

・地図ワーク等（別途指示）

5 評価規準と評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	世界の歴史や諸地域の事象、現代の諸問題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する思考力を持っている。	資料を自分の力で読み取り、考え、判断することができる。	各地域世界の古代文明が成立する過程と特徴、そして各世界間が交流する様子について理解している。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト	・資料の判読作業の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

現代社会は多くも問題や課題を抱えています。そこには、歴史の展開の中で形作られてきた複雑な要因が横たわっています。従って、現代世界が抱える諸問題を理解し、将来への展望を開くためには、歴史的知識が不可欠なのです。私たちが生きる現代社会への問題意識を持って世界史を学んでほしいと思います。歴史は過去を学ぶのではなく、現代を知るために学ぶものです。

平成28年度シラバス (地理歴史) 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(世界史探究)	単位数	4単位	学年 系	3学年(普通科 文系)
使用準教科書	『詳説 世界史B』(山川出版社) 『高等学校 日本史A 最新版』(清水書院)				
副教材等	『世界史B用語集』(山川出版社) 『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)				

1 学習目標

「世界史 B」の学習を踏まえ、我が国の歴史と関連づけながら探究活動等を通じて理解を深めさせるとともに、資料等を活用し現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力・判断力・表現力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

以下に設定する世界史の様々な課題を探究する。
 ① 日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活における歴史に関わる主題を設定し考察させる。
 ② 人類が自然環境に適応しながら諸文明を構築し、やがてより大きな地域世界を形成した行程を把握させる。
 ③ ユーラシアの海域及び内陸ネットワークを背景に、諸地域世界の交流が形成・再編されたことを把握させる。
 ④ アジアの繁栄と欧州の拡大を背景に、諸地域世界の結合の進展、主権国家体制を整え工業化を達成した欧州の進出により、世界の構造化の進展と社会の変容の促進を理解させる。
 ⑤ 現代世界の地球規模での一体化と、二度の世界大戦や冷戦を経て、相互依存をいっそう強めたことを理解させ、今日人類が直面する課題を歴史的観点から考察させる。
 ⑥ 以上のようなテーマから、その内容を調査研究する方法についても考察し、レポートの作成などを通じて思考力・判断力・表現力を身につけさせる。

3 指導計画

月	単元名	教材	主要学習指導領域と学習指導計画 (時数)	時数	評価
4月 5月	1 世界史の基礎と日本史とのかかわり	準教科書・副教材	先史時代 埋葬 世界の人種・語族 地理的環境 文字の歴史 暦(太陰暦・太陽暦・授時暦・貞享暦・グレゴリウス暦) 日本人と暦	27	定期考査・授業態度等
6月	2 東アジアネットワークと日本	プリント	中国歴代王朝 中国人の呼び方(諡号・字等) 中国の主要都市 中国歴代王朝の諸制度 農民反乱(各時代の農民反乱の原因と内容) 三国志の世界(三国志と三国志演義と魏志倭人伝) 辛亥革命後の中国 歴史書(史記・資治通鑑ほか) 東南アジアの歴史 インドシナ半島の歴史 諸島部の歴史 大戦後のインドシナ史 朝鮮半島の歴史 北方民族の歴史	17	
7月	3 欧米諸国の発展と、世界・日本への影響		西ヨーロッパ各国史 主要国以外(アイルランド・スコットランド・ポーランド) 革命史 名譽革命・アメリカ独立革命・フランス革命ほか 東ヨーロッパ各国史 ユーゴスラヴィア史 民族の移動 ゲルマン・アメリカへの移民・ユダヤ・黒人奴隷など ヨーロッパの諸都市(中世と都市の現実) ヨーロッパとの接触 戦国から明治維新まで	15	
			※ 各自課題を設定し深く探究する活動を随時実施		

8月	(自分でテーマをつくり、自主学習し、レポートを提出させる)						
9月 10月	4 第三世界の歴史と現代世界、政治・経済へのかかわり	準教科書・副教材・プリント	イスラム各国史 イスラム諸都市 イスタンブル・カイロほか イスラムのネットワーク イスラエルの歴史 パレスチナ問題 … 何が原因かを探る アフリカ史 南北アメリカ文明 … 教科書で触れないアメリカ古代史	現代イスラーム国家比較 日本にあるモスク 現代史における存在 現アフリカとの比較 教科書で触れないアメリカ古代史	31	定期 考 査 ・ 授 業 態 度 ・ レ ポ ー ト 等	
11月 12月	5 各テーマから見る世界史・日本史		宗教通史 キリスト教(カトリック・プロテスタント・異端とは) イスラーム教(シーア派・スンナ派・イスラーム原理主義) 仏教(大乘・小乗・チベット) 東西文化の交流 茶・兵器・工芸美術 貨幣経済の拡大(金・銀・紙幣) 戦争史 思想史	日本に与えた影響 日本の仏教との比較 西欧・西アジアの関わり			30
1月	6 世界と日本の直面する国際問題		南北問題 核軍縮と反核平和運動 民族運動・地域紛争 労働運動・社会主義・民族運動 ヨーロッパ統合 20世紀の文化 地球環境 ※ 各自課題を設定し深く探究する活動を随時実施	日本と他国の立場			

4 課題・提出物等

- ・夏季休業中と冬季休業中の課題は、別途指示します。
- ・各生徒の到達度にしたがって課題(レポート等)を適宜設定します。

5 評価規準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価 の 観 点	世界の歴史や諸地域の事象を日本史や地理、現代の諸問題に関連づけし、隣接した地域が相互に影響しあっていることに、	世界の構造や成り立ちを日本を含む歴史的な視野から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を、適切に表現し、発表しうる言語活動・表現ができる。	レポートの作成などに際し、主題を設定し、諸資料から有用な情報を適切に選択し、関連づけて活用ができ、考察・整理している。	諸資料にもとづき、地理的条件をふまえた上で、各時代における世界各地の時代の流れ、世界と日本を関連づけて理解、その知識を身につけている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・資史料の判読作業の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

細切れになりがちな世界史の流れを、あらためて、各国別やあるテーマを取り上げ、いろいろな側面から見直してみたいと思います。中学校から高校二年生までに、世界史または日本史における世界との関わりについて、深く触れることのできなかつた分野について、レポート等を作成することによって、より深い理解を得ることができるようにしたいと思います。

平成29年度シラバス (地理歴史) 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科 (科目)	地歴 (日本史探究)	単位数	4単位	学年 系	3学年 (普通科 文系選択者)
使用準教科書	山川出版社『詳説 日本史』				
補助教材等	『図説日本史通覧』(帝国書院) 『改訂版日本史用語集』(山川出版社)				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を世界の動きの中に位置づけると同時に、海域をこえた資料や身近な地域の資料の双方を用いて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の地域的特色についての理解と認識を深めさせることにより、多面的な歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- 以下に設定する日本史の様々な問題について、重点的に指導する。
- ① 日本史の各時代で、政治・経済について、東アジアやユーラシアなど世界との海域と内陸世界にどうつながっていたのか、また文化については世界と日本との双方向的に影響を与えることがなかったのか、日本の異国認識はどのように変遷してきたのか、等の諸点を中心に、日本史Bで学んだ歴史の時間軸から踏み込み、グローバルな視点に基づく諸分野のネットワーク形成の動きを明らかにする。
 - ② 日本の身近な地域の歴史を文献資料や文化遺産を見直すと同時に、日本海が海域・大陸と隔てるものではなくつながる存在であったものとしてとらえ直し、東アジア史や世界史における位置づけを行う。
 - ③ 生徒自身が歴史的事象から課題を見だし、その問いの考察の過程で、知識や技能を活用して身につける。
 - ④ 思考力・判断力・表現力については、プレゼンテーションなどの言語活動を通して育成する。

3 指導計画 (「時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数)

月	単元名	主要学習領域	時	学習活動 (指導内容)
4	第1章 原始日本と大陸との交流	1 海をこえる石器 2 稲の伝来	9	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島で見えられたヒスイ、シベリアからもたらされた長岡市荒屋遺跡の旧石器を素材とし、日本海を媒介とした文化の芽生えを地域の中で考察する。 ・稲のプラント・オパールを地図におおす作業を通して水稲耕作の大陸からの伝来ルートを説明する。
5	第2章 冊封体制下における古代日本の形成	1 隋唐と律令 2 アジアの都城	10	<ul style="list-style-type: none"> ・日中律令の史料解釈を通して、律令国家の形成の共通点や独自性を考察する。 ・唐・渤海の都城と平城京のプランを比較し、この背景にある緊張する対外関係などの事情を考察する。 ※ 各時、探究的活動を実施
6	第3章 東アジア世界の再編と日本への影響	1 アジアの国風文化	10	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア各地で文化の自立が進み国風文化が形成されたことを、北宋の影響を受けた釈迦如来像の地域への普及を通して考察する。 ・宋や高麗との貿易の実態をモノ資料から明らかにする。 ・女真人の寺泊浦漂着の記録の読解を通して女真や元との政治的交流を明らかにする。
6	第4章 モンゴル帝国の展開と日本の中世社会	1 女真・元との交流 2 アジアの中の蒙古襲来	10	<ul style="list-style-type: none"> ・蒙古襲来はアジア各地に対して行われた事実を史料読解や地図のルート書き込みを通して考察させる。 ・明の史料や日本から派遣された僧侶の記録を読解し、明から見た日明貿易の実態について考察する。
7	第5章 明の冊封下における東アジアと日本	1 日明貿易 2 日朝貿易と大蔵経	10	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期の外交と貿易が東アジアの政治動向や広域の物流の中に位置づけられることを確認する。寺院日記や朝鮮王朝の記録から越後国も日本海・東シナ海を使節が往来し朝鮮大蔵経の入手の一翼を担っていたことを明らかにする。 ※ 各時、探究的活動を実施
8				
9	第6章 大航海時代の中での日本	1 南蛮屏風は語る 2 絵馬と朱印船貿易	10	<ul style="list-style-type: none"> ・南蛮屏風等に描かれた南蛮文化や異国の人々についての認識と実態とのギャップについて考察する。 ・清水寺や神出に残る絵馬に描かれた多数の朱印船を比較することにより、交流ルートや介在した商人を明らかにする。 ・対外交流の消長を明らかにする。同時に「鎖国」はゆるやかなもので四つの口と呼ばれた国内の窓口を通じての交流が継続していく経緯をオランダ商館日記を読解することにより明らかにする。
	第7章 鎖国下における海外交	1 から見た「鎖国」と四つの口	10	

	流	2 陶磁器・絵画の国際交流		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県域にも陶磁器や絵画を介したヨーロッパ・東アジアとの文化交流が存在した事実を明らかにし、ヨーロッパではジャポニズムが流行した背景を考察する。 ※ 各時、探究的活動を実施
10	第8章 市民革命、産業革命と日本	1 対外危機意識 2 蘭学ネットワーク	10	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の三大改革を対外危機意識という世界的視野でとらえ直す。 ・蘭学の流行による海をこえた文化ネットワークの存在をモノ・資料等から考察する。 ・幕末のペリーの風刺画等を比較分析し、製作の意図を説明する。幕末から明治初期にかけて新潟を訪れた外国人(イザベラ・バードやブルーノ・タウト)などの記録を講解し、外国人から見た明治維新について説明する。 ・世界各地のチラシやポスターを分析し、第1次・第2次大戦における世界、特にアジアから見た日本の位置づけを行う。その中で新潟県域からの日本海や太平洋を越える移民の交流を明らかにする。
	第9章 国際社会における近代日本の成立	1 風刺画に見る開国の背景 2 外国人から見た明治維新	12	
11				
	第10章 2つの世界大戦の考察	1 世界大戦と日本 2 失われた文化交流	10	<ul style="list-style-type: none"> ・占領下の日本人の体験を聞き取ったテープを素材に日本人占領に対する生の意識を明らかにする。 ・戦後の外国のニュース映画から東西冷戦の過程を整理して説明する。
12	第11章 東西冷戦と占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の影響	10	<ul style="list-style-type: none"> ・『新潟日報』などの資料を用い、新潟県民から見た経済成長と国際競争の実態を考察する。
	第12章 高度成長と国際交流の活発化	1 経済成長と国際競争 2 よみがえる国際文化交流	9	<ul style="list-style-type: none"> ・モノ資料や美術品を分析し、戦後アジアの国々と日本の間で文化交流が復活したことを明らかにする。 ・グラフを分析し、貿易摩擦の背景を考察する ・世界各国の小中学生の作文を講解し、国際平和を実現する具体的な方策を提案する。 ※ 各時、探究的活動を実施
1				
2	第13章 グローバル化の進展と国際社会の課題	1 貿易摩擦 2 平和への模索	8	

4 課題・提出物等

・単元を終えるたびに「地域の探究」というレポートを作成します。細部については、授業から導き出された各自の関心と課題に基づき設定し、特に世界と日本のつながりと日本の歴史的な位置づけに言及します。大学入学後のレポート作成に続きます。

5 評価規準と評価方法

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
評価の規準	日本史と世界史のつながりと社会化の特色に対する関心と課題意識を持っている。これを授業中における・発言をはじめ、事前学習や授業レポートで表現できる。	日本史の推移の特色から課題を見だし、その問いに世界史と関連付けて多面的に考察し、公正に判断して表現している。その際、個人・グループでの言語活動を行う。	日本史と世界史のつながりと社会と文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し効果的に活用する。個人のワークプリントやグループでの作業を通じて学習を深める。	日本史についての基本的な事柄を世界史と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。自己評価や生徒同士の相互評価を活用する。
評価方法	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 提出物の内容	発問に対する発言内容 学習活動への参加状況 定期考査・小テスト	提出物の内容 発問に対する発言内容	定期考査・小テスト 学習活動への参加状況

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

日本史Bにおいて縦の時間軸で学んだ日本史の視点について、本科目の学習を通して、新たに、広域的に横につながるグローバルな視野を体得します。さらに新潟県という身近な「地域」が歴史的には日本海域の国々となつがる存在であり、世界史・東アジア史・ユーラシアの歴史と連関し、政治・経済・文化の交流、人的・物的・精神的な広域ネットワークが形成された経緯を確認します。これは、国際社会人としての教養を身に付けると同時に大学教育で求められる学際的視点の構築にもつながり、今後の新潟発、日本からの国際交流のあり方を考える起点となります。

平成29年度シラバス（地理歴史） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科(科目)	地歴(地理B)	単位数	2単位	学年 系	3学年(普通科 理系、理数科)
使用教科書	帝国書院『新詳地理B 初訂版』、帝国書院『新詳高等地図 初訂版』				
副教材等	帝国書院『新詳地理資料COMPLETE2016』、 とうほう『ニューコンパスノート 地理』 二宮書店『地理統計要覧2016年版』、帝国書院「地理データファイル2017年版」				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ① 作業学習を取り入れながら基礎的な知識の習得を重視するとともに、地理的な見方や考え方を体系的に身につけることを目指します。更には、地図や統計に示された内容を理解し、これらの資料を上手く活用できる能力を養います。
- ② 現代の世界を地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)ごとに学び、理解を深めることを目指します。
- ③ 世界の諸課題(国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題)に関心を持ち理解を深めるとともに、課題解決の方途を考察できる力を育てます。
- ④ 演習問題を通して、大学入試センター試験に対応できる学力を身につけます。

3 指導計画

() 内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	評価方法
4	第4章 州・大陸規模 の地域調査	教科書 副教材 プリント	③インド(3) ④西・中央アジア (3) ⑤ヨーロッパ(2)	・インドの自然、産業、文化の特徴を 学びます。 ・西・中央アジアの自然、産業、文化 の特徴を学びます。 ・ヨーロッパの自然、産業、文化の特 徴を学びます。	授業の取組 課題提出物
5	第Ⅲ部 グローバル化 する現代世界 第1章 近隣諸国の研 究	教科書 副教材 プリント	⑤ヨーロッパ(3) ⑥東南アジア(3) ①韓国の研究(3)	・ヨーロッパの自然、産業、文化の特 徴を学びます。 ・EUの歩みと特徴を学びます。 ・東南アジアの自然、産業、文化の特 徴を学びます。 ・ASEANの歩みと特徴を学びます。 ・韓国の自然、文化、産業について学 びます。	授業の取組 課題提出物 第1回定期考査 授業の取組 課題提出物 第2回定期考査
6	第1章 近隣諸国の研 究 第2章 結びつきを強 める現代世界 の諸課題のと らえ方	教科書 副教材 プリント	②中国の研究(3) ③ロシアの研究 (3) ①国家と国家群 (3)	・中国の自然、文化、産業、人口問題 について学びます。 ・ロシアの自然、文化、産業について 学びます。 ・国家の三要素、国家間の結びつき、 政治・経済的組織、国境をめぐる諸問 題を学びます。	
7	第2章 グローバルに 結びつく現代 世界 第3章 地図でとらえ る現代世界	教科書 副教材 プリント	②世界を結ぶ交通 ・通信(2) ③現代世界の貿易 (2) ①地図化によっ て何がわかるか (3)	・世界の交通・通信網の発展とその問 題を学びます。 ・情報化社会における現状と課題につ いて考察します。 ・貿易における国際分業や各国の特徴 を学びます。 ・日本の貿易の特徴と課題について、 世界との関わりから考察します。 ・統計地図を用いて、そこから特色を つかみとる技能を養います。	授業の取組 課題提出物
8					課題提出物
9	第4章 地域区分でと らえる現代世 界	教科書 副教材 プリント	①地域区分の目的 と方法(1) ②地域区分でとら れる現代世界の	・地域区分によって、地域の特色や他 の地域との比較・つながりを捉えるよ うになることを理解します。 ・アフリカやラテンアメリカの地域区 分の事例を通して、その地域の概況や	授業の取組 課題提出物 第3回定期考査

	第IV部 地球的な課題 第1章 人口・食料問題		課題(2) ①かたよる人口と食料生産(2) ②さまざまな人口・食料問題(2)	課題を考察します。(自然、産業、民族等の特徴も学びます。) ・人口分布の偏りを自然環境や産業活動を通して考察します。 ・人口移動の現状と問題点を学びます。 ・食糧問題の現状を人口問題との関わりから理解し、その解決策を考察します。 ・発展途上国、先進国の現状と課題を考察します。	
10	第3章 環境・エネルギー問題	教科書副教材プリント	③人口・食料問題への取り組み(2) ④世界と比べてみた日本の人口問題(1) ①世界の環境・エネルギー問題(2)	・日本の少子高齢化の進展について理解し、世界的な視野から考察します。 ・世界の環境・エネルギー問題を、地域性をふまえて考察します。 ・様々な環境・エネルギー問題を学びます。 ・国連の環境問題に対する取組を学びます。	授業の取組
11		教科書副教材プリント	②さまざまな環境・エネルギー問題(3) ③解決への取り組み(1) ④日本の環境・エネルギー問題(2)	・環境・エネルギー問題について、日本が果たす役割を考察します。	授業の取組 第4回定期考査
12	第4章 民族・領土問題	教科書副教材プリント	①世界の民族・領土問題(3) ②民族・領土をめぐる対立の課題(3)	・世界の様々な民族の特徴を学びます。 ・現代国家が複数民族国家であることを考察します。 ・民族をめぐる諸問題の背景や理由を学び、民族の共生について考察します。	
1		教科書副教材プリント	③民族の共生へ向けての課題(3) ④民族・領土からとらえた日本(3)	・日本の抱える民族・領土問題を通して 真の国際理解を考察します。	

4 課題・提出物等

・夏季休業中の課題や各単元ごとの作業課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価の観点・規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト	・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

この科目では、地形図や統計資料の読みとりを行いながら、世界の様々な地域の特徴について考察していきたいです。日本以外の国の産業や文化を学びますが、そこから日本との共通点、相違点をみつけ、自分たちの社会を知るきっかけになってくれればと考えています。

平成29年度シラバス（地理歴史）

学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	地歴（地理探究）	単位数	4単位	学年 系	3学年（普通科 文系選択者）
使用準教科書	帝国書院『新詳地理B』, 帝国書院『新詳高等地図』, 東京書籍『世界史A』				
副教材等	帝国書院『新詳地理資料 COMPLETE 2016』 とうほう『ニューコンパスノート 地理』, 二宮書店『地理統計要覧2016年版』 帝国書院『地理データファイル2017年版』				

1 学習目標

「地理B」の学習基盤をもとに、地理的事象や現代世界の諸地域、諸課題を近現代史を中心とする歴史的観点を踏まえて探究的に考察させることによって、現代世界の地理的認識と思考力・判断力・表現力を養うとともに、資料等を活用し、地理的な見方や考え方を近現代史との因果関係を探究することを通じて、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ① 地理 B で培った地理的認識や地理的な見方や考え方を、歴史的観点から再構成することによって一層深める。
- ② 生徒が興味・関心を抱いたテーマを自ら選択し、その内容を調査するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択する力を身に付けさせる。
- ③ 探究レポートの作成などを通じて、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

3 指導計画

() 内は授業時間55分を1時限とした授業時数

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	評価方法
4	自然環境と歴史	準教科書 副教材 プリント	○地形と歴史(3) ○気候と歴史(3)	・大地形, 小地形, その他の地形の分布や気候要素と気候因子, それぞれの気候区の特徴と農業など, 自然環境と歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して, 地理と歴史への関心を高める。 ・ナイル川の定期的増水と古代エジプトにおける農業生産や恒常風・季節風を利用したインド洋の貿易などの事例を取り上げる。	授業の取組
	古代文明と農耕		○農耕と牧畜の始まり(3)	・自然環境と農耕・牧畜に着目し, 各地に形成された諸文明について概観する。	授業の取組
	ユーラシアの諸文明と人文地理		○ユーラシアの諸地域世界 ・アジア世界(10) ・東南アジア世界(6) ・南アジア世界(6) ・西アジア世界(9) ・ヨーロッパ世界(10)	・ユーラシアの諸地域について, 自然環境, 生活, 宗教などに着目しながら歴史的背景を踏まえて考察し, 必要に応じて探究する活動を行う。 ・中国の成立や民族, 宗教(儒教, ラマ教), 周辺国の歴史について考察し, 多民族国家の抱える課題や人口抑制政策の採用に伴う国家の変容等について探究する活動を行う。 ・イスラームや仏教などの宗教を例に, 海の道からもたらされた重層的な文化を考察する。 ・南アジアの風土と諸民族を理解し, 仏教, ヒンドゥー教などの宗教を例に, 南アジアで成立した多様な文化の共生について考察する。 ・西アジアの風土と諸民族を理解し, ユダヤ教, キリスト教, イスラームなどの宗教について考察する。 ・東西ヨーロッパ世界の成立を題材に, 諸民族の分布やキリスト教会の分裂について考察する。	第1回定期考査 授業の取組 探究レポート
5					
6					
7					
8	大西洋世界と人文地理		○大西洋世界の変容とその波及 ・アメリカ独立革命(7)	・ウィーン体制後に発生した革命や領土の変遷等について, 歴史的背景を踏まえて考察する。 ・アメリカ独立革命を題材に, 農業分布を理解するとともに黒人奴隷の導入の背景や建国の過程を考察する。	第2回定期考査 課題提出物
9					

		<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカ諸国の独立（5） ・広がる植民地と世界（5） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカの独立運動を題材に、人種・民族、宗教、奴隷制等について考察する。 ・アジア、アフリカの植民地がたどった変遷について考察する。 	第3回定期考査 授業の取組 課題提出物
10	産業革命と農業・工業	<ul style="list-style-type: none"> ○産業化社会の拡大と成熟 ・西ヨーロッパ（8） ・アメリカ（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命と資本主義の確立がもたらしたヨーロッパ・アメリカにおける工業化について考察する。 ・産業革命を題材に、ヨーロッパの農業革命や産業化について考察する。 ・アメリカの領土拡大を題材に、合衆国の農業、工業について考察する。 	
11	第二次産業革命とエネルギー・鉱産資源 国際的な人口移動	<ul style="list-style-type: none"> ○急変する人類社会（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次産業革命を題材に、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。 ・新大陸への移民を題材に、国際的な人口移動について考察する。 	第4回定期考査 授業の取組 探究レポート
	アフリカの歴史と現状	<ul style="list-style-type: none"> ○植民地の拡大と深まる国家の対立（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義を題材に、アフリカの分割と独立について、紛争や南北問題等、現在まで残る影響について考察し、探究する活動を行う。 	
12	冷戦下の国際秩序と国家・民族	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦と民族独立の時代（16） 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦を題材に、両陣営の対立について考察するとともに、中国や朝鮮半島、東南アジアの動向について、特に経済発展に着目して考察する。 ・中東戦争を題材に、パレスティナ問題やイスラーム復興運動、石油戦略等について探究する。 	
	冷戦の終結と地域統合	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル化と諸地域の模索（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界貿易や経済圏の現状と課題について考察する。 	
1	持続可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> ○21世紀に生きる（6） 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題や戦争と平和など現代社会の諸課題について、地理的および歴史的視点から探究するとともに、持続可能な社会を実現する方向性などについて展望させる。 	

4 課題・提出物等

・夏季休業中の課題や各単元ごとの課題や探究レポートについては別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価の観点・規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識が歴史的背景を踏まえることにより一層高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを歴史的背景を踏まえて系統的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、年表、画像、図像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や歴史的背景を踏まえた追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト
以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

地理Bで学んだことがらについて、より歴史的に見つめ直してみることで、現代世界の現状が歴史によって形成されてきたものとあらためて認識できるなど、学びの深化が実感できるはず。また、この科目では世界の様々な地域の特色について深く考察し、レポートにまとめるなどの探究的な活動を行います。地理と歴史が互いに融合する面白さを感じてもらいたいと思います。

平成29年度シラバス（公民） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	公民（公民総合B）	単位数	2単位	学年 系	3学年（普通科 文系選択者）
使用準教科書	清水書院『高等学校 新倫理』最新版 東京書籍『政治・経済』				
補助教材等	テオリア 最新倫理資料集 二訂版（第一学習社）				

1 学習目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

現代社会は少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展や環境問題、科学技術の発展と生命の問題などに地球規模で対応しなければ早急に対応しなければならない問題が山積している。また、異なる文化や価値観を持つ人々との共存や協力が不可欠になり、社会の構造的な変化が急速に進んでいる。そのような問題に対して、そもそも私たちが現在自明のものとして認めている近代的な思想の体系、例えば人間理性の尊重、人間の尊厳、法治主義、議会制の民主主義、西洋文化などを、無批判に普遍的で価値あるものとして認めている状況に立ちかえて、批判を試みている識者が数多く活躍している。

公民総合Bでは、前期においては「政治・経済」「世界史」の学習成果を基盤とし、14世紀以降の社会情勢とそれに伴う思想や宗教の関連性について【基礎的理解】として総合的に考察する。その際には歴史的事象とそれに強く影響を受けた思想や宗教の関連性を中心に、「人間の尊厳」「科学的思考」「議会制民主主義」「人間理性への信頼」「資本主義」などを批判的に考察し、その妥当性を検討することが中心的な課題となる。

後期においては、【発展学習】として前期に学んだ基本的な理解と視座を用い、現代に問題について主体的に課題を設定し、人間のあり方生き方についての自覚を深め、自らの表現方法を用い自分の考えや主張を展開する。具体的には生徒自身が興味・関心を抱いたテーマを選択し、その内容を調査探究するための方法を考え、その方法を実行しレポートを執筆した上で、その発表を行う。

3 指導計画（「時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	時	学習活動（指導内容）	評価	
4	動 1 近代社会の胎	準教科書・副教材・プリント	〈背景〉ヨーロッパにおける近代社会の胎動 1 人間の尊厳 2 ルネサンスと技術の進展 3 宗教改革と農民戦争・宗教戦争 4 宗教的寛容とモラリストの思索	6	<ul style="list-style-type: none"> 14～15世紀になるとヨーロッパでは海外への進出がさかんになり交易がさかんになりました。ルネサンスや宗教改革はその影響のもと発生し、近代社会の形成に向けての動きが始まる契機になりました。 経済の発展と文化圏の交流は科学革命とよばれる自然科学の枠組みの転換を引き起こし、その後の資本主義経済の進展を準備することになります。 	第1回定期考査	
	5		2 科学と人間	8			<ul style="list-style-type: none"> 人間性の尊重、科学的な思考など現代人の思考の枠組みの基礎的な部分が成立したこの時代について、その背景と影響、特徴を考察し、歴史的事象と思想との関係、その現代的意義と限界について理解を深めます。
6	3 政治と人間		〈背景〉ヨーロッパとアメリカの諸革命 1 イギリス市民革命とホップズ、ロック 2 アメリカ独立革命と独立宣言 3 フランス啓蒙思想と革命、モンテスキュー、ルソー 4 社会契約論と現代民主主義	8	<ul style="list-style-type: none"> 18～19世紀では人間の尊厳性や科学革命に伴う経済の発展等の影響のもと、市民革命が発生し、議会制民主主義が定着していきます。 民主主義の定着と国民国家の形成は産業革命の進展と資本主義経済の成長と同時に展開していきます。 議会制民主主義と主権在民の思想、人間理性への信頼、資本主義の進展と経済人としての人間のありかた、資本主義と人間疎外の進展など、この時代について、その背景と影響関係、特徴を考察し、歴史的事象と近代思想との関係、その現代的意義と限界について理解を深めます。 現代の議会制民主主義の妥当性を説明する種々の理論はこの時代を中心に確立していきました。「政治・経済」の既習事項を参考に現代の政治制度とその妥当性について理解を深めます。 		第2回定期考査
	4 理性への信		〈背景〉ナポレオン戦争 1 ドイツ観念論 2 カントと国際平和論 3 ヘーゲルの国家論と法哲学				
	5 個人と社会の幸福		〈背景〉19世紀 国民国家への道 1 功利主義 2 法学者としてのベンサム 3 ミルの女性参政権擁護論 4 プラグマティズム 5 デューイと20世紀アメリカ民主主義 6 デューイの教育理論				
7	6 産業と社会		〈背景〉産業化社会の拡大と成熟 1 資本主義と社会主義 2 資本主義と実存主義 3 現代の資本主義とヒューマニズム	6			

8	課外 夏期	(夏期課外) 補習を行います。		・ 詳細は後日決定します。	なし 評価
9	7 近代とはなにか	〈背景〉第二次世界大戦 1 近代的自我批判と精神分析学 2 文明批判と構造主義 3 言語のありかたと分析哲学 4 ナチズム批判とフランクフルト学派 5 新しい「正義」のあり方 6 オリエンタリズム批判とポスト・コロニアリズム	8	・ 科学技術を生み出した近代の理性万能主義は、文明の進歩を約束し、不合理な抑圧状態から人間を解放し合理的な社会を作り上げることを可能にしました。 ・ しかしながら、近代が築き上げてきた我々が自明のものとしていた合理的な社会、科学技術、人間理性への尊重など近代が作ってきた思考の形態に対して、様々な矛盾や限界が露呈しました。その最たるものが第二次世界大戦だったのです。 ・ このような野蛮で悲惨な結果をもたらしてしまった近代とはなんだったのか。また、これに異議を申し立て、より自由で人間性が確保された新たな人間存在のあり方や社会のあり方を求めてさまざまな場で挑戦を続ける現代の思想家について、その背景と影響、特徴を考察し、歴史的事象と思想、その現代的意義について理解を深めます。	第3回定期考査
10	8 発展学習	1 家族・地域社会・男女共同参画社会・高齢社会 2 大衆社会・消費社会・官僚制 3 情報化社会 4 国際社会・異文化理解・多文化主義 5 生命倫理 6 環境倫理 7 資本主義と人間性の尊重	28	・ ますます複雑化・多様化し、激変する現代社会の諸課題についてその状況を理解した上で、倫理を含むこれまでに学習の成果をいかしながらどのように対応していけばいいのか主体的に思索します。 ・ 生徒自身が興味・関心を抱いたテーマを選択し、その内容を調査探究するための方法を考え、その方法を実行しレポートを執筆した上で、その発表を行います。 ・ レポートを作成する際には倫理で履修したことはもとより、地理歴史、公民科目で履修したことも含めてレポートを作成します。その際にこれまで履修した地理歴史・公民科目の教科書資料集を利用するので準備しておいてください。	レポート執筆の過程・内容・発表を中心に評価します
11					
12					
1					

4 課題・提出物等

・ 単元ごとの課題提出物などは別途指示します。・ 10月以降はレポートの執筆が主になります。

5 評価基準と評価方法

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
評価の観点・基準	今までの既習事項をいかして、現代社会において自分自身がどのように在りたいかということについて関心を高め、自己実現に向けての意欲を持ち、これらに関わる諸課題について、自分や他者、社会との関わりから学ぶ態度が身に付いている。	学んだ事や他者からの意見などをもとに、主体的・科学的・論理的に思索・思考し、客観的に公正な判断をすることができる。	資料をメディアや文献等を通して収集し、必要な情報を取捨選択し、活用することができるか。また活用の場面では、他者の意見も尊重しつつ、レポートを執筆し適切な方法で表現できる。	倫理思想や現代社会の特質についての基礎・基本的な知識を正しく理解し、自らの人生観・世界観を形づくるための知識として身に付けている。
評価方法	・ 学習活動への参加状況 ・ 提出物の内容 ・ 発問に対する発言内容	・ 学習活動への参加状況 ・ 提出物の内容 ・ 発表内容・発問に対する発言内容 ・ 定期考査、小テスト	・ 諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・ 発表の内容 ・ 提出物の内容	・ 学習活動への参加状況 ・ 提出物の内容 ・ 発問に対する発言内容 ・ 定期考査、小テスト
以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

3年生の皆さん。進路選択を目の前にして、皆さんはこれからどのように生きていきたいと思っていますか？そして近い将来皆さんが活躍する世界はどのような世界だと思いますか？この科目では我々の思考や価値判断の様式を根本において形成している枠組みのようなものを過去の生きた人たちの遺産をもとに考えてみたいと思います。後世の人たちの評価は様々なものであっても、その時代を生きた人たちが真摯に追究しようとしたものを現代の私たちの目で見直すことは、現代社会を生きる私たちにとって有用なことのように思われます。

みなさんがこれまで学んできたものを縦横無尽に駆使して自分の頭で考えましょう。そして、その大切な思索を自分の言葉でもっと適した方法で目の前の人に伝えましょう。学びの醍醐味はここに尽きます。